



本学では 2005 年度から北海道大学オープンコースウェアプロジェクト（以下、北大 OCW）を開始し、講義の資料や映像を通して北海道大学の教育を伝えています。この趣旨にご賛同くださる先生方のご協力で活動を維持していますので、本ニュースレターで北大 OCW の活動をより一層ご理解いただければ幸いです。皆様からの資料提供を心よりお待ちしております。

本ニュースレターでは、北大 OCW の活動にご協力くださっている先生方の声をシリーズでお伝えします。今回は、全学教育 芸術と文学「北大生のための音楽講座 -1350 分の理論と実践（初級）」の授業映像を提供して下さっている、文学研究科の安達真由美先生にお話を伺いました。

安達先生の研究について 教えてください

私の専門は音楽心理学、または音楽発達心理学です。心理学は基礎研究から応用・臨床までを含む幅広い学問ですが、その中の音楽に関連する内容すべてを音楽心理学が扱っています。さらに、音楽の「音」そのものの特性に注目するためには音響学の知識が、また「社会・文化における音楽という現象」を捉えるためには社会学や人類学の視点が必要となるため、音楽心理学は実に学際的な研究分野と言えるでしょう。たとえば、私の学生の一人は、ピアニストの芸術的表現や感情的ニュアンスが演奏音や身体の動きを通して聴衆にどのように伝わるかについて研究していますが、彼の場合には、心理学の知識や技術に加え、演奏音の音響学的分析、演奏楽曲の時代的背景や当時の演奏習慣についての音楽学・音楽美学的知識、たくさんの変数を統合してモデル化するための統計学的手法を駆使しています。また、応用的なプロジェクトとして行っている妊婦と音楽との関わり合いについての研究では、周産期を通して変化する妊婦のホルモンが音楽に対する印象や聞き方に影響を与える可能性もあるため、内分泌学の知識も必要とします。

音楽心理学には、心理学という学問をメインにし、その学問の素材として音楽を利用する場合と、人間の現象としての音楽をメインにし、その本質を解き明かすために心理学を利用する場合があります。

す。私の場合は、もともとピアノを教えていたこともあり、後者のスタンスをとっています。私にとっては「子どもの発達と音楽」が一番のトピックですが、それにこだわることなく、音楽聴取や演奏、作曲、あるいは音楽の機能など、私たちの生活の中に溶け込んでいる音楽の様々な様相を、より深く理解していけるような研究を世の中に送り出していきたいと思っています。

安達先生の授業のモットーを 教えてください

私が留学していたときにお世話になった先生が「自分が教えていた時は、教科書を使わなかった。毎年自分で考え、同じ授業を行ったことがない。毎年同じことをするようになったら、自分は教師を辞める」とおっしゃっていました。それを聞いて、すごくカッコいいと思ったんです。私自身は、その先生ほどの工夫は毎年できていませんが、同じ授業題目を教える時には、「毎回必ずどこかを改善する」ということをモットーに行っています。そういえば、私がピアノを教えていた時も、同じことを教えるということはありませんでした。生徒はそれぞれ違うのですから。大学の授業の場合、大枠を変えない方がよいこともありますので、一概には言えませんが、少なくとも私の場合には、同じ大枠の中であっても、「前回から内容をアップデートする」、「前回は時間切れになってしまってできなかったことを組み入れられるように工夫する」など、少しずつでも改善するよう



安達 真由美（あだち まゆみ）
文学部文学研究科教授
【専門】音楽心理学、音楽発達心理学

にしています。教師として手を抜くことがないよう、自分に対する戒めとして、そのモットーを掲げています。

OCW で授業を公開するメリットは 何でしょうか？

自分で三脚とカメラをセットをして撮影をすると、撮りっぱなしで終わってしまうことになりがちです。一方、OCW 依頼時には、編集済みの映像を公開前に自分でチェックする機会があり、自分の授業をその都度振り返ることができます。また、これは実際にやってみて気がついた点なのですが、映像で振り返ることで、これまで知らなかった自分の動きの癖にも気づかせていただけました。人前で話すことが仕事ですので、自分の動き方や話し方を客観的に確認できたということは、大きなメリットでした。OCW を利用することは「Faculty Development」の一環にもなると思います。他の先生たちにも、OCW を利用することをぜひお勧めしたいと思います。

【安達真由美先生の映像コンテンツ】

- ・全学教育
芸術と文学
「北大生のための音楽講座 1350 分の理論と実践（初級）」

左写真は、授業第 15 回目
ゲスト講師の今村直子氏（ジャズピアニスト）による
「新しい独学の仕方の一例：iPad, iPhone アプリ『iRealb』の紹介」



【新規コンテンツ公開状況（2012/2/11 ～ 2012/11/30）】

【全学教育】	科学・技術の世界	野生動物保全と人間社会 ゼロからはじめる「科学力」養成講座 1、2（2011 年度） 北大生のための音楽講座 - 1350 分の理論と実践（初級） - 大学博物館講座 - 北大自然史研究の系譜 - 大学と社会（2012 年度）
	芸術と文学	環境社会学特別講義
	環境と人間	環境社会学特別講義
	特別講義	教育能力を高めるために（FD 研修映像資料）
【大学院教育】	環境科学院	先住民文化遺産とツーリズム（ガイダンスビデオ）
【教育・研究資料】	教育	総合入試特別プログラム
	歴史・考古学	経済学部セミナー 原発は是か非か！？ - エネルギー政策と北海道経済 - きつと役に立つキット教材開発セミナー 平成 23 年度サイエンス・リーダーズ・キャンプ 幾何図形を用いた線の変容 コラボレーションするビジュアル・トリック 芸術とアートにおけるビジュアル・トリック 参加型地域活性化におけるウェブコンテンツ構築の研究 働く女性の ON と OFF 北海道大学東アジアメディア研究センターシンポジウム「中国をどのように伝えるか」 平成 23 年度北海道大学大塚賞受賞者講演会 オープンコースウェアとオープンエジュケーション サイエンスパーク in 北海道大学総合博物館 健康とリスク - 健康の社会的規定要因 - 高齢社会のリスクとタスク 福島原発事故から見る科学技術の社会的リスク 子ども・若者が直面する「リスク」と貧困・社会的不利 地球温暖化と二酸化炭素 - 陸上生態系による調節 - 次世代分散型電源と自然冷熱エネルギーの有効利用 環境汚染問題からみたアジアの中の日本 アジアで発生した巨大地震・巨大津波 私の藻食論 - 海藻を食べて健康になりましょう - マリモはなぜ阿寒湖で丸くなるのか 空気と大気 - 環境問題に加担する地球内部 - 都ぞ弥生 これまでの百年 これからの百年 私たちの生活を支える金属資源：マグマからの贈り物 火山噴火の中長期予測の手法と現状 クラーク博士の採集した地衣類 考古学は何を語れるか？ 身近な岩石・鉱物と資源の話 大陸から島へ クラーク博士と札幌の植物 近松、最後の一筆 - 辞世文の匠を読み解く - そうだ、聖地へ行こう バレイショの根を育てる 次世代の農業の担い手をどう確保するのか 北海道から発信！ロボットによる未来の農業 米どころ北海道をつくる品種改良 地球の皮膚を守る農業 農都共生のススめ 価値創造と人材育成への挑戦 - 会社経営で学んだこと - 未来を創る北大農学の使命 農学の開祖・新渡戸稲造なら TPP(環太平洋連携協定) をどうみるか カタツムリと住宅材料 博物館に学ぶ 中国怪獣総進撃 - メディアの中の怪獣文化 - 越境する中国のメディア プラハの作家カフカ ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ 第 2 回 アムール・オホーツクコンソーシアム国際会合 サステナブルキャンパス国際シンポジウム 2011 細胞インテリジェンスの自己組織化
【オープンキャンパス】	セミナー / 講演会	
【公開講座 / セミナー】	セミナー / 講演会	
	小中高校生向けセミナー	
	北海道大学公開講座	
	土曜市民セミナー	
	人文学カフェ	
	時計台サロン	
	バイオメティクス市民セミナー	
	グローバル COE プログラム	
	サステナビリティウィーク	
	最終講義	

